

理想の地で、多様な世代の県民が集う、健幸の場～水泳とスポーツ科学を核にしたみんなで作る川口の元気～

1 水泳王国埼玉の礎を築く

1945年10月1日 埼玉県水泳連盟設立

初代会長 大野 元美元川口市市長昭和57年まで36年間会長を務める

- ・市内小中学校にプールを建設
- ・大学の後輩を指導者として招致
- ・水球・飛び込みの指導者も誘致・スイミングクラブとの共存

2代目会長 高島 朗 元川口女子高校校長

3代目会長 永瀬 洋治元川口市長

奥ノ木市長も埼玉県水泳振興議員連盟初代会長を務める



2 県内の水泳競技を牽引

1960年 中学選手権大会 青木中学校10連覇

1967年 第22回国民体育大会川口市で開催

1983年 学徒総合体育大会川口女子高校28連覇

2004年 第59回回りの国まごころ国体、川口市で開催



3 水泳文化が根付くまち

① 市立中学校26校のうち16校に水泳部を設置

② 市立スポーツセンターを中心に8つのプールを整備

③ 水泳愛好者及び青少年育成のための水泳クラブが30以上



4 埼玉県からはじまる、新たな健幸づくり

施設との相互連携サイクル

×
人口107万人による最大効果
(居住地から至近距離による利用拡大)

- ・スポーツ医科学制度の確立
- ・アスリート・オリンピック・指導者の人材輩出(育成)・連携
- ・競技力の向上・競技人口の裾野拡大
- ・大学と高校の共同研究の発展
- ・県内高校へ知見の共有・波及
- ・知見データの県民への活用
- ・障害予防
- ・健康寿命の延伸

川口市がモデルケースとなり
全県への波及・発展・進化



01

発展性ある立地

- 個人利用による**県営スポーツ施設がない**県南4市への設置
→ **利用者の顕在化、利用率の向上**
- 国立スポーツ科学センター他、県内各地と**交通至便な立地**
- **スポーツ科学コース**(川口市立高校)等、教育機関との連携
- **健康寿命延伸**につながる医療・福祉施設との連携
- 時代に適した段階整備ができる**拡張余地の高い**平坦整地地

健康

埼玉発、新たな健康寿命の延伸への取り組み

スポーツ科学と医療機関の知見データの融合による健康寿命延伸による医療費の抑制

教育

アスリート・オリンピック・指導者の人材輩出(育成)を推進

新設される川口市立高等学校スポーツ科学コースの生徒の研究活動の実践等、未来に向けた連携

防災

災害レジリエンスの高い防災拠点

断層帯のない大宮台地の辺縁部に位置し、水害に対しても盛土+大規模貯留施設で万全の対応

環境

地産地消の最先端エコプール熱源

運営エネルギーを太陽熱と太陽光のベストミックスで自給自足

02

県施設と連携した整備

- 市有地内における県施設の整備(市の土地を**無償提供**)
- 県施設と連携できる市スポーツ施設の**再整備**
- 県民の利便性を最大限に高める公園機能の**拡張**
- **ここから始まる**県民の心と体の健康の場づくり

03

競技スポーツの理想郷

- **自然採光・自然換気**に適した東西南北軸に沿った敷地形状
- 新たに整備する競技スポーツの**集積地**
- スポーツ科学拠点に**相乗効果**をもたらす市有施設の**情報連携**
- 崖線・見沼代用水沿いの桜並木から広がる**緑豊かな環境整備**

